

今年も各町会公民館で文化祭
が賑やかに行われました。地
域の児童からお年寄りの書
道、写真、菊花、盆栽、そし
て手芸品等の作品が揃い、秋の一日を楽しみました。町会公民館長の感想を写真に添えました。
(伊深・岡田町・塩倉 10/26 山浦・東区・神沢・松岡 11/3 実施)

町内文化祭

館報

おなだ

あいさつで明るく
ちみぶい まちづくり



伊深

10月26日10時
からの作品展示
には地区のみな
さまの力作60点
ほどが出品さ
れ、中には菊花
17鉢もの出品者
も。来場者は茸
の煮付け・豚汁・
おにぎりでの歓
談と鑑賞で各々
ひとときを過ご
されました。
赤羽貴治



神沢

恒例の「り
んご人気投票
コンテスト」を
行いました。
出品されたり
んごはどれも
美味しく、悩
みながらの投
票となりました。
来場者には
公民館女性
役員自慢のお
でんが振る舞
われました。
中條建一



山浦

今年は例年以上に沢山の皆
様のご協力をいただき展示を
することが出来ました。また、
ジャンボ力ボチャの重さ当て
等の催しもあり、大盛況でし
た。
大池正泰



東区

今年にはBGMを館内に流し、子供たちの習字や絵画・猫つぐら・菊花等を展示しました。
いずれ劣らぬ力作揃いでした。今後は舞台発表も視野にいれています。
高本信治



松岡

希少な古生代化石の出品
があり、多くの方が興味深
く見入っていました。入山辺、
四賀地区でも採れるとの事
おもてなしとして、茶席を設
けました。新しく地元野菜
の展示販売を行いました。
小林道正



岡田町

好天に恵まれて多くの来場者で盛り上がりました。菊花・写真・手芸・子供たちの作品など数多く展示されました。
所 正彦



塩倉

今年はおもてなしに手作りケーキバイキングを取り入れてみました。みなさんの作品を鑑賞しながら色々なケーキとコーヒー・紅茶をいただき、楽しいひとときを過ごしました。
大澤育光

人物登場

毎日が勉強

伊深 大久保 諒さん

地元の工業高校をこの三月に卒業し、四月から社会人一年生として働き始めた諒さんを紹介します。なんと？就職先は松本の老舗洋菓子店。工業高校から、なぜ？と思われた方も少なくないと思います。学校への職場体験の募集に参加し、そこで言葉では上手く言い表せない何かを感じたこの事でした。そして、入社。現在は商品の管理と配送を担当しているそうです。

「特にケーキを店舗へ配送する折は一番緊張し、車の運転も慎重になる。お客様とのふれあい、会社の諸先輩、仲間との関係など、『毎日が勉強の連続』。」

先日、インターネットで自社を検索したところ、取り扱った菓子名もさることながら、色々な評価や口コミ情報が掲載されていた。中にはこんな



(聞き手 M・O)

事まで分かるの？とびつくりする様なマニアックな内容もあり、記事を読む事で改めて県内外も含め、地元の多くのファンに支えられていると感じた。伝統を重んじ、変わらない事への美学を感じつつ、この店のカラーを守って行きたい。」と力強く答えてくれました。

これからしたい事を尋ねたところ、「八月にバイクの免許を取得し、中型バイクを乗り始めたので、来年の夏は遠くへツーリングに出かけたい。そして、社会人として、少しずつでも地元へ貢献出来る事をしていきたい。」と笑みを浮かべました。

これから成長して行く、若者に期待を込めて、エールを送りたい。ガンバレ諒！

不要食器の処分が困っていませんか

10月26日に、地区環境衛生協議会と福祉ひろば事業推進協議会で、食器リサイクル事業見学会が行われ、関係者24名が参加しました。目的は、家庭で不要になった食器を、リサイクル処分や希望者に再利用いただく事業に参加すべきか検討するためです。市バスを利用し美濃焼きで有名な多治見市の二工場見学と、虎渓山を拝観しました。

多治見市は「環境首都をめざす自治体」として、平成17年に、食器リサイクル事業「グリーンライフ21」を立ち上げ、法人化し運営しています。事業化は、地元の良質な陶土の資源が7〜8年で涸渇するとの危機感からです。不要食器を微粉にし、陶土に混ぜ陶器に再生する技術を開発しました。今日20%迄混入できるとのことです。食器になる迄には、いくつもの工程があり、分業で地域全体で取り組んでいます。

日本全国に600近くの回収拠点が有り、松本地域では、波田町、松原町が、活動に加わっています。事業に加わるためには、①輸送費の他に処理費25円/kgの負担②1200℃以上で焼かれた器であること③給付されている部分が1/3以下であること。その他種々の制約があり、人による選別作業が必要です。以上不要食器リサイクルの概要を記しました。地区で取り組むべきか皆さんの意見を協議会に寄せてください。(取材 大久保直人)

食器再生の流れ(器から器へ)



生活雑記

愛犬マツシュ

東区 柳沢 治一

私の家では何十年も前から犬を飼うのが常でした(私自身の日課は、ごみ出しと犬の散歩です)。今のマツシュは何代目かは判りませんが、牝の九才でお産の経験はありません。からだは大い方で、後足で立つと大人の肩位まではあり、体重は二十kgを超えています。

彼女の人間好きは一通りではありません。人は誰でも犬が好きなんだと思っているようです。散歩中でも人に会うと誰もが「いゝ子いゝ子」をばられる私は、大もたつきです。会った時は人も犬も大喜びで、そして又会おうと思うのでしょうか。一〜二分じゃれ合って両方が満足のように人前です。

犬小舎は外の囲いのサークルに置いてありますが、彼女は、小舎には入らず屋根の上を居場所にして居ます。小舎の屋根と、家の居間の床の高さが同じ位なので、居間のガラス戸を開けると、彼女は家の中に入ってきます。そこを居場所にするのが常で、室内に入らないのに部屋の中の方が多い位です。特に猛暑の日は、クーラーを入れると、外より快適なのをちゃあんと承知のようで家人と一緒に人前です。